



## 今ある働きの中で

岡崎茨坪伝道所牧師  
介護福祉士  
佐藤直樹  
(第51回卒)

去る3月、久しぶりに神学校を訪ね、卒業式礼拝と茶話会に出席しました。平日は重度心身障がい者の生活・居宅介護施設に勤めており、この日は夜勤を終えて住んでいる名古屋から日帰りで行きました。今回卒業式に出席したのは、卒業生の出立を祝うとともに自分自身もかつて学んだ原点に立ち返ってみようと思ったからです。

在学中何を学んでいたのかを振り返ると、神学や聖書学で特定のものを深めたこともなく、農業実習も畑にはあまり行かず不真面目で、学びも「広く浅く」でしかなかったかと、今ではもったいないことをしたと思っています。ただ牧師として立つならば、神と人とともに生きること、人のためとその生きる世のために祈り、仕えていくことを、在学中の教師、学生をはじめとする多くの人々を通して、自分の中に刻み込まれました。この「刻印」を今回の卒業式に出席してきれいに洗い、今働く場で磨いていこうと、思いを新たにしました。

今の働く場は先述の介護施設での正職員としての勤務が主であり、教会での牧師の勤めはあくまで副という扱いになっています。そのことを前提として着任した岡崎茨坪伝道所での働きも、間もなく10年になろうとしています。

伝道所では「戦争責任告白（戦責告白）」の内実を、現代の日本を生きるキリスト者が避けられない問題として担っていくことを学び、実践してき

ました。イエスが貧しく、弱く、差別された人々とともにある生き方を求めたように、社会にあつて問題を担いつつ生きることを求め、さまざまな問題に関わってきました。また、その学びの中から生み出された戦責告白を自らのものにしようと構想し、文章化した「わたしたちの告白」を尊重しています。その中で牧師を含めた教会員がそれぞれの場で課題を担い、礼拝ではその思いを分かち合うとともに、祈り支え合っています。そのため礼拝も牧師の説教が必ず行われるのではなく、教会員が主体となって証しや活動の報告、あるいはかつての礼拝説教から今日の意味を改めて聞くことや、聖書研究、映像視聴からの分かち合いと多岐にわたっています。現在では牧師による説教礼拝は基本月1回となっています。また最近では名古屋近郊の都市部でも、兼牧・無牧教会が増えており、近隣の教会の礼拝応援・説教奉仕にも出かけています。

そのような中でじっくり机に向かって説教を準備するより、聖句を念頭に置きつつ動きながら感じたことをまとめて話しているのが現実です。説教がまとまらず断片的になったり、伝えようとしたことが伝えきれなかったと反省することも多くあります。

すでに教会は牧師の働きに対して、専従専業であることを求めることが難しくなっています。ならばパウロが天幕作りを生業としていたように、さまざまな働きと並行して教会に仕えていくことが必要になってきます。このようなスタイルが自分に課せられた、主にある働きだと信じるとともに、介護と教会のどちらの働きも今しばらく続けていきたいと願っています。



岡崎茨坪伝道所の礼拝

## 農伝グッズ販売を始めて22年ーしおりからパームクロスまでー

農村伝道神学校を訪ねてくださるお客様に何か記念となるものはないか、と考えていました。2002年ころのあるとき、学校案内のパンフにあった、校舎の絵に強く惹かれました。森のなかにひっそりとたたずみ、木漏れ日を浴びた2階建ての古びた校舎の姿。思わず切り抜き、台紙に張りリボンをつけて“しおり”にしてみました（写真）。これを農伝訪問の記念品として4枚200円で販売したのが、初めての農伝後援会グッズでした。後にこの絵が、『信徒の友』の表紙を描かれていた金斗鉦先生の絵と知りました。金先生の絵は「野津田の四季」や「聖書物語」（12点）などをハガキにして、今も販売させていただいています。



この切り抜き“しおり”を始めとして、校地の山野草から押し花はがきが生まれ、竹林の竹からドングリけん玉が生まれました。学校の竹はその後もキジの笛、長クツペラ、ネコの手（背カキ棒）、竹コップ、一



輪挿しなどにも使用し、農伝グッズにとって貴重な材料になっています。2020年頃までにイクトスペンダント、タウ十字ペンダントなどを合わせ、グッズは30種ほどになりましたが、その後しばらく新しいグッズのアイデアが続きませんでした。

あるとき、ずっと以前に農伝講師のある方から、大変に難しいリクエストがあったことを思い出しました。外国で、友人が持っていた携帯用の十字架がとても手触りがよく、「いつでもどこでも握りしめて祈っている」と言っていたそうです。帰国してから自分も欲しいと思って捜しましたが日本にはなく、「何とか作ってほしい」と言われ、チャレンジしました。何度も作り直した末、「これこれ！」と納得いただいた十字架を思い出し、今回、新グッズとして作りました。これからも皆様に喜んでお求めいただけるグッズを用意してまいります。どうぞ農伝へお越しの折は記念として、お土産としてお求めください。

（古川力也 後援会）

（古川力也 後援会）

## 農伝ボランティア 愉しく活動しています

ぜひあなたも加わってくださ〜い

昨年5月、「後援会だより」で農伝ボランティア大募集！！と呼びかけました。数名のかたが新しく参加してくださり、ルバーブ畑の手入れ、ビワの葉茶・野草木茶づくり、ひょうたん、へちまを育てています。農伝の環境整備のため笹刈り、枝がら（しがら）作りもしています。農伝野草木茶の袋詰め、農伝グッズ整理など室内作業もあります。



活動日 火曜日・木曜日 9時～16時の可能な時間。  
お弁当をご持参いただいでお昼もご一緒しましょう。

竹林まへの枝がら（しがら）づくり  
枝と落ち葉を使い、雨水を土に浸透させる伝統技法。農伝ではコンクリートのU字溝を外し、枝がら工法に切り替えています。水が浸透する場所の草木は健康になり、豊かな生物多様性を育みます。

見学大歓迎！！ お気軽にお問合せください。  
お待ちしております。  
農村伝道神学校後援会

## 祝福が一杯！ 農伝支援コンサートを主に感謝

去る3月2日（土）、まぶね教会（神奈川県川崎市、林巖雄牧師）を会場にムジカ・フェリチタの皆様による室内楽コンサートが開催されました。コロナの5類への移行により、入場は当日の自由来場、演奏は昨年同様13時・15時開演の2部制としていただき、延べ110名の皆さんで素晴らしい音楽を楽しむことができました。

「オール・バッハ・プログラム」と題して、オルガン曲「バビロンの流れのほとりにて」をはじめ、バイオリン、オーボエ、トリオによるソナタ、すべての曲目がJ.S. バッハの作品でした。コンサートは林牧師の温かいご挨拶にはじまり、演奏の合間には、神学生・農場職員・教師による自然の中の神学校と農場の紹介、アンコールは器楽演奏にあわせて全員で『讚美歌21』311番「血しおしたたる」を賛美し、禿準一理事長のお礼の言葉で締めくくられました。手作りの販売品、会場献金も豊かに捧げられ、祝福に溢れた時となりましたことを感謝いたします。演奏者、まぶね教会の皆様、ご来場・ご支援くださいました皆様、本当にありがとうございました。（斎藤純子 後援会実務委員）



### 卒業生は いま！！

### 夫婦ともに80代となりました

星野美雪（保育科第10回生）



私と夫は同時代をともに農伝で過ごしました。私は保育科で学びましたが、60年も前のこととなります。よき先生、先輩方、出会う人々からたくさんの影響を受けました。農村教会を支えるよき働き人、保育者になりたいとの熱い思いを、私だけでなく皆共有していたよい時代でした。結婚してからは、牧師の妻の立場で、秋田県八郎潟での開拓伝道をはじめとして、ともに働いてまいりました。

夫が50余年の牧師生活を終わり、ともに時間や心にも少しゆとりができ、昔を振り返る機会も多くなりました。教会のためにと頑張りすぎたかなあ、とか、身近な家族に心を向けることが足りなかった、すまなかったなあ、などと心で呟くこともあります。今は車で20分ほどの宇佐美教会に出席し、奏楽奉仕をしています。歴代の牧師に農伝卒業生も多く、保育科卒の大先輩が信徒の最高齢者でおられます。夫が脳梗塞で手足が不自由になり、その手助けやリハビリへの送迎の日々ですが、図書館のおはなし会のボランティアを今も楽しみに続けております。

2023年度 農村伝道神学校後援会会計報告

2024年1月16日～4月5日( )内の数字は回数で、金額はその合計です。

Table with columns for '後援献金(団体)', '後援献金(個人)', '記念日他献金(団体)', and '記念日他献金(個人)'. It lists various churches and individuals with their respective contribution amounts and counts.

2023年度農村伝道神学校後援会会計報告

2023年4月1日～2024年3月31日現在

Summary table comparing income and expenses. Columns include '収入の部(単位:円)' and '支出の部(単位:円)', with sub-columns for '2023年度' and '前年度' for both items and amounts.

感謝とお願い 学校法人鶴川学院 00140-7-635524の振替口座にお振り込みくださり、ありがとうございます。これまでの後援会口座 00120-6-24418は9月で閉じる予定です。ご理解くださるようお願いいたします。

事務局だより

2023年度も厳しい状況のなかで農村伝道神学校支援のために後援献金をお送りいただき深く感謝をいたします。神学校に741万円を献げることができました。「農伝グッズ22年」(P2)を後援会の古川力也さんに迎っていただきました。「何も役に立たないであろう子(こ)ロバをイエスが選びエルサレムへの道に用いられた」ことから子ロバ工房と名付け、倒木を使って十字架を作り始めたとのこと。いまは農伝産竹炭、ジャムも加わり「のうでん森の工房」となりました。農伝ボランティアと楽しい活動の日々を過ごし、常に後援会実務委員のご参加を心待ちしています。 長谷川りゑ子

発行 農村伝道神学校後援会 会長 島 しづ子 事務局長 長谷川りゑ子

〒195-0063 東京都町田市野津町 2024 TEL 042-735-5775 FAX 042-735-5711 Eメール: 後援会 kouenkai@noden.ac.jp 農村伝道神学校 noden@pony.ocn.ne.jp ホームページ: https://noden.ac.jp/ 郵便振替口座 加入者名: 学校法人鶴川学院 00140-7-635524